授業科目名	共生のための国際協力	単位数	2
担当教員名	大嶋英一	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	大嶋英一：外交の実務経験を踏まえ、実践や問題解決に役立つ議論を行う		

「学位授与の方針」との関係

国際協力の考え方や実践を学び考えることで、学位授与の方針のうち特に「多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につける」ことに寄与する。

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

途上国の実情と国際協力の重要性を学ぶことで、現代の国際社会をよりよく理解し、基礎的な国際的視野を身につける。また、共生的な世界を築くために、私たちは個人として、あるいは国を通じてどのような国際協力を行うべきか自分の頭で考えられるようになることを目標とする。

【テーマ】

1. 途上国の実情と開発支援
2. 日本の ODA と SDGs
3. 人間の安全保障
4. 共生世界を目指して

授業の概要

戦後 75 年以上にわたり日本は幸い大きな紛争に巻き込まれることなく平和で豊かな社会を築いてきたが、世界には今も多くの人々が貧困に喘ぎ、小学校にすら行けない子供たちもいる。また、貧困と紛争は結びついており、内戦の起きた国の半分近くで 5 年以内に紛争が再発している。共生的な世界を築くためには最低限人々が紛争に巻き込まれることを防ぎ、平和で将来に希望を持てる生活を享受できることが必要である。そのために我々は何ができるだろうか？本コースでは、国際協力の基礎を学ぶことを目的として、国際協力の中でも大きなウエートを占めている途上国への開発支援と SDGs をまず取り上げ、国や市民社会が行っている国際協力の果たしている役割について現場での経験を交えて論じる。また、内戦や民族紛争に伴う難民の急増など近年の世界の状況に対応して「人間の安全保障」の考え方や紛争予防・紛争後の復興のための「平和構築」という考え方が生まれ、従来別々に行われてきた経済協力と安保協力が一体化しつつある現状についても実例を交えて論じる。以上を踏まえ共生的な世界を実現するためにどのような国際協力が必要なのかディスカッションを通じて明らかにし、日本や市民社会が果たすべき役割について考える。

授業計画

第１回：オリエンテーション＆イントロダクション
第２回：現場で見た途上国の実情と開発
第３回：開発支援の歴史―植民地の独立と南北問題
第４回：日本の政府開発援助（ODA）
第５回：ODA の実例
第６回：外交と ODA
第７回：MDGs と SDGs

第８回：SDGs の特徴と意義
第９回：SDGs の問題点
第１０回：人間の安全保障
第１１回：人間の安全保障の実践
第１２回：平和構築
第１３回：平和構築の実践
第１４回： 共生的世界と国際協力
第１５回：共生的世界と日本の役割
定期試験

スクーリングでの学修内容
途上国の実情、国や市民社会が行っている国際協力の実際、SDGs、人間の安全保障や平和構築について現場での経験を踏まえ説明し、アクティブラーニングの手法（ディスカッション）も用いて討議する。

教科書
（１）高橋和志、山形辰史編著『国際協力ってなんだろう』(2010), 岩波ジュニア新書
（２）蟹江憲史『SDGs』(2020), 中公新書

参考文献
1. 内海成治編『新版　国際協力論を学ぶ人のために』（2016）, 世界思想社
2. 紀谷昌彦・山形辰史『私たちが国際協力する理由』(2019)，日本評論社
3. 下村恭民他『国際協力　第３版　その新しい潮流』(2016)，有斐閣選書
4. 渡辺利夫他『ODA 日本に何ができるか』(2003)，中公新書
5. 平野克己『経済大陸アフリカ』(2013)，中公新書
6. 草野厚『日本はなぜ地球の裏側まで援助するのか』(2007)，朝日新書
7. 長有紀枝『入門 人間の安全保障　増補版』(2021), 中公新書
8.外務省「ODA(政府開発援助))」https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index.html
9. SDGs 市民社会ネットワーク『基本解説そうだったのか。SDGs』第２版（2018），
一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク

学生に対する評価
スクーリング評価（２５％)、レポート評価（２５％)、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。